

郷土の偉人・大島有隣
— 石門心学入門⑩ —

天明六年（二七八六）二月、手島堵庵が没し、その子である和庵が寛政三年（二七九二）十月に没すると、心学界の支配者は、上河淇水となります。三舍印鑑制を確立した淇水は、いかに心学普及に熱心であっても、京都心学三舍の権威を重んじないものに対しては、厳しい態度で臨みました。

例えば、脇坂義堂という人物は、舌禍事件によって手島堵庵から破門されるという憂き目を過去に見ていますが、その後、中沢道二に拾われ、後には人足寄場の二代目教諭方（因みに三代目が大島有隣）を務め、数多くの書物を著すなど、心学界で活躍しました。

しかし、堵庵はもちろん、道二の在世中にも、京都心学界から、つまりは淇水から義堂が許されることはありませんでした。義堂が許されたのは、その死の前年である文化十四年（一八一七）二月、堵庵三十三回忌の時でした。

また、道二高弟の一人である北条玄養は、関東北部から東北一体にかけて心学教化活動を展開した殊勲者でしたが、三舍印鑑を求め

て京都に上ることを怠ったという理由で、淇水から「無礼者」の烙印を押されたようです。それでも中沢道二が、関東心学界の重鎮として、京都心学（淇水）との協調を図っているうちは、なんとか事なきを得ている部分が多分にありました。享和三年（一八〇三）に中沢道二が没すると、いよいよ関東心学と京都心学との正面衝突は、避けられない事態となっていくようになります。すなわち、大島有隣と上河淇水の対立です。（つづく）



明倫舎扁額
(上河淇水が第3世舎主を務めた。)

※三舍印鑑制：4月号参照
※脇坂義堂の高槻城下舌禍事件：この事件が、具体的にどのようなものであったのか詳細は不明な部分が多い。
(社会教育課 町史・文化財担当編)

みんなでつくる 愛される図書館⑧

問合せ

町立図書館 ☎ (33) 4056

乳幼児サービス

乳幼児サービスとは、図書館で0歳から未就学の乳児・幼児およびその保護者を対象とするサービスです。0～2歳と保護者を対象とした「親子で楽しむ0・1・2歳絵本さがし」、乳幼児向けのおはなし会「小さい子のおはなし会」、3歳の子どもと一緒にスタンプを集める「ライブラリースタート」など、様々なイベントを行っています。また、普段おはなし会を開催している「おはなしのへや」はおはなし会がない時は自由に利用することができます。

イベントや絵本をとおして子どもとふれあいをしてみませんか？ぜひ図書館にお立ち寄りください。



親子で楽しむ0・1・2歳
絵本さがし



「おはなしのへや」の
利用



ライブラリースタート
スタンプカードの配布



乳幼児向け絵本
「赤ちゃん絵本」